

第2回第3期中間市地域福祉計画・
中間市地域活動計画策定委員会
(書面審議) 結果報告

1 書面審議について

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、第2回第3期中間市地域福祉計画・中間市地域福祉活動計画策定委員会は書面審議といたしました。このことに伴い、事務局において、委員の皆様からのご意見等を取りまとめましたのでご報告いたします。

2 開催日

令和4年12月14日（水）から令和4年12月23日（金）まで

3 出席者状況（※書面審議回答者、順不同）

委員	鬼崎 信好
委員	安田 明美
委員	中尾 淳子
委員	池田 久紀
委員	森本 邦枝
委員	舩津 革
委員	河島 隆士
委員	外城 順子
委員	戸畑 典子
委員	藤澤 冬美
委員	鶴戸 正晴
委員	小林 哲治
委員	高橋 寿子
委員	大野木 章

3 議 事

(1) 【協議事項】「第2回第3期計画策定委員会」議事録の中間市ホームページ掲載について

《承認の可否》

承認状況：委員15名中（承認する 15名、承認しない 0名、未回答 0名）

結 果：承認されました

(2) 校区まちづくり協議会ヒアリング調査の結果について

(ご意見・ご質問)

委員名	ご意見・ご質問	回 答
A 委員	市域が狭い中間市であります。小地域小学校ごとにヒアリング調査結果は微妙に異なっているようです。是非とも社協職員が地域に出向いて(アウトリーチ)地域づくりに取り組んで戴きたいと存じます。	社協は校区まちづくり協議会の協力団体として、各校区まちづくり協議会の運営委員会や行事などに参加、協力しています。それぞれの地域が抱える福祉課題・生活課題の解決に向け、社協職員がアウトリーチを積極的に行い、地域住民と協働しながら誰もが安心して暮らせる地域づくりの推進に取り組んでまいります。
B 委員	制度や枠組みから発想するのではなく「困っている人」の立場から考えるスタンスになればと思います。	各校区とも地域住民の困りごとをもとに課題を考えており、その課題を解決するために取り組んでまいります。
C 委員	①自治会組織への加入について西校区におきましても、自治会役員・組長を引き受けたくない理由で退会する人が多くなっています。 ②自治会長が自ら新しく入居した人を訪問し、勧誘を行っているところは、すばらしいと思います。	①自治会長、組長又は役員に負担が集中しすぎないように、役職にかかわらず、自治会の方全員で協力し合うことが必要だと考えます。 ②自治会に参加する方を増やすことで、地域の繋がりが広がります。この事例は、安全安心まちづくり課を経由して情報公開いたします。
D 委員	コロナ禍が低迷する中、各校区まち協の各活動が50%以上達成できている事に感謝しております。これも役員方の他ならぬ努力の賜物と思います。	コロナ禍になってからは、どうしても活動を縮小せざるを得なかったとは思いますが。また、コロナ禍の中でもできることを工夫されておられます。各校区でそれぞれ工夫をし

委員名	ご意見・ご質問	回 答
D 委員		ながら一生懸命取り組みを行っていたいただいた成果だと考えます。
E 委員	隣近所、自治会と個々の家庭の関係が希薄化している現状では民生委員や自治会役員にそれぞれの地域での高齢者支援、子育て支援を任せるのは困難かと思われます。新しいネットワーク作りや、それぞれの地域に専従市職員を配置するなど地域の負担を軽減する事も大事かもしれません	自治会、民生委員・児童委員、老人クラブ連合会、婦人会等の各地域団体がそれぞれ高齢化、組織率の低下などで活動を行うことが困難になってきています。そのため、平成 25 年度から各校区でまちづくり協議会を結成し、校区全体で課題解決に向け取り組みを進めております。
F 委員	どの校区でも、少子高齢化のために自治会活動が潤滑に運ばれていないのが悩みで、特にコロナ禍では活動が停止していたので、これから立て直しを図るには、地域住民のさらなる協力が必要ではと思いました。自治会ごとに参加し易い催し物等を行って、地域で交流していくことが課題となりますが、地域によっては始めの役員を決めることから難題であると思いました。広域での催し物を行い、まずは、気軽に参加できるものがあるといいのではと思いました。	自治会加入者の減少や高齢化といった様々な理由により、自治会によっては自分たちだけで行事を開催することが困難となってきました。そのため、その校区のまちづくり協議会で活動することにより地域の活性化や人材の確保、行事の継続が可能になってくると考えております。4月以降、新型コロナウイルスが5類に位置付けられますので、対策を講じた催し物等が実施されるのではないかと期待しております。
G 委員	今後の日本社会の縮図をみるようで、どの自治体でも同様な課題があることをアンケートから感じました。ただ、アンケートに基づく今後の展開の際し以下（下線部分）のような捉え方で行うか行わないかで、今後の成果に差が出てくるように感じました。 ①高齢者対策について 先日、地域で支える認知症施策で必要な市町村の取り組みという講演を拝聴しました。その中での講師が、「困りごとないですか。」と聞いても出てこないが「なにかやりたいことはありますか。」という問いかけだと高齢者からお手伝いしてほしいこと	①中間市は福岡県内でも高齢化率の高い市であり、高齢者対策につきましては、校区まちづくり協議会のヒアリング調査でもありましたとおり、課題として1番多く挙げておりました。認知症の方への支援や、認知症予防のための支援も必要ですが、地域住民の方々に、認知症に対する理解を深めていただくことも大事です。中間市では、認知症カフェ、認知症サポーター養成講座、講演会、地域の取り組みに係る活動報告会の開催、市役所に認知症についての展示コーナーの設置、認知症

委員名	ご意見・ご質問	回 答
G 委員	が出てくるとの話がありました。また、認知症の方で万引きなどの事例があるが、発想を「万引行動」から「未払い行動」へと地域の理解を求めるために本人の同意を得て医師の診断書と当事者の写真を付けて警察と地域の店舗へ届ける方法を提案しているとの話がありました。実行するためには整理することがあるかとは思いますが、<u>相手の行動に肯定的な理由を見出し、関わりのある行政、市民、法人等ができる範囲で折り合いをつけ支援すること</u>が、必要なのではないかと考えます。 ②防犯防災について 例えば、どこに防災備品を備えているか、どこへ問い合わせればいいのかなど、日頃からの取り組みで習慣化されていると、不意の出来事に自分是对応できると思えることが安心を生むと考えます。できる、できないではなく、どうすればいいのかの意識を持つと視点が変わってくると思います。町自体をきれいにすることが軽犯罪の防止に効果があると聞いたことがあります。防犯に犬を飼っている方たちが協力してくれて、散歩のついでにパトロールを行っている自治体もあるようです。「ついで行動」は少しのステップアップで取り組みやすいのではないのでしょうか。	に係る動画の作成等市民の方に認知症についての理解を深めていただくための様々な取り組みを行っております。 ②防災につきましては、各校区のまちづくり協議会の主催により避難訓練を実施しており、実際にどのように避難をするのかを確認しています。また、その際に参加者に備蓄についての説明を行う等しています。 防犯につきましては、各自治会でふるさとみまわり隊を結成しており、自治会によっては、散歩や地域の方との集合の際に「ながら防犯活動」として実施しているところもあるようです。また、各校区まちづくり協議会に青パトを配置しており、市役所や買い出し等移動の際に青色回転灯を点灯させることにより、「ついで行動」で防犯活動も行っております。
H 委員	①各校区問題点は同じようです。 ②取り組みをどのように実行していくかが課題だと思います。	①各校区での良い取り組みをお互いに共有して課題解決に結びつけばと考えます。 ②校区まちづくり協議会の所属団体や、活動を通じて繋がった人材と協力し活用することが必要だと考えます。
I 委員	報告書より地域によっては問題をかかえている所もあり、また、役員の高齢化等で対応が難しいようなので行政も関わり、一	地域でできること、行政ができること、そして地域と行政が一緒になってできることを洗い出して、それぞ

委員名	ご意見・ご質問	回 答
I 委員	緒に良い解決法を見い出して頂けたらと思います。	れ解決に向けた取組みをする必要があると考えます。
J 委員	①中間市全体の課題と小地域での課題をそれぞれ掘り起こす作業は大切だと思います。全体的に「子育て支援」の課題があまり感じられていないように思います。消滅する都市として中間市があげられたことを踏まえると、残念に思うところです。 ②独居高齢者や災害時での支援が必要な人たちへの関わりも「個人情報保護」の壁で難しい所があります。私の知るところでは近隣の自治体ではもう少し融通のある取組みをしているようです。また、東日本大震災後の支援についての映画（共作連の映画）では個人情報を超えての取組みがなされたことが表現されていました。工夫できることがあるのではないかと思います。	①地域の子育て世帯が求める声を聴くことで課題をまとめ、それを解決するために各校区で取組みをしていけたらと考えます。 ②中間市では、避難行動要支援者名簿を毎年度作成しており、災害時には警察や消防等の避難支援等関係者に情報提供できるようにしております。また、地域で要支援者をリストアップし、本人からの同意を得られた方は、平時から避難支援等関係者に情報提供を行っております。

(3) 第3期中間市地域福祉計画・中間市地域福祉活動計画骨子(案)について
(ご意見・ご質問)

委員名	ご意見・ご質問	回 答
A 委員	市当局はもとより、地域住民(市民)も助け合いのまちづくりに参画することが重要となります。住民組織の調整役として社協の活躍が重要です。社協の関与を期待するとともに、社協職員の奮起を大いに求めます。	助け合いのまちづくりを推進するため、地域課題を発見し、住民組織や福祉関係機関・団体との調整(つなぎ)を行いながら、地域住民と地域の中で助け合いの仕組みづくりに取り組むことのできる CSW (コミュニティソーシャルワーカー)の配置を検討します。
B 委員	対象者を制度に当てはめるのではなく、地域というフィールド上に展開する営みであり、また、個人のニーズに合わせて地域を変えてゆくという地域づくりであり、個別の取組みの積み重ねが地域を大きく変えてゆくと思います。	今回のアンケート調査を通じて、市民が抱える困り事を洗い出し、それを解決するために、市民、地域団体・事業者、社会福祉協議会、行政が取り組むべき目標を設定しました。それぞれが課題解決のために取り組むことで、少しでも住民の困り事が解決したらと考えます。
C 委員	第3章 計画の基本方針について 1-3 重層的支援体制整備事業について 計画の中に記載いただき、ありがとうございます。準備期間は必要だと思いますが、将来の複合的な相談事例にも課題として対応できる体制を期待します。 第6章 地方再犯防止推進計画について 再犯率が 48.7%という高い再犯率に計画が必要であることがわかります。子を殺された犯罪被害者の講話を聴く機会がありましたが、事件が発生した時の家族の自分の行動への自戒、二次被害等で、残された家族自体が未だに笑顔で生活ができなくなっているということを知り、そのような事態にならないためにも加害者側の再犯を防止することは必要であると感じます。	罪を犯した方は、刑を終えて出所した後も生活が困窮している、就職できないといった様々な課題を抱えている場合があります。その課題を自分一人で解決することは非常に困難であり、解決できずに結果として再び罪を犯す可能性が高くなります。必要な支援に繋げるなど、社会全体で支援することにより、再犯率を減少することができると考えます。 また、犯罪被害者も同様に、被害に遭われた後、生活困窮や精神的不安等支援が必要な状況にあることから、資金面の援助やカウンセリング、相談窓口や手続

委員名	ご意見・ご質問	回 答
C 委員		きの同行支援等が必要であると 考えます。
D 委員	「地域福祉」として「再犯防止」の推進を課題にあげるとは賛成です。それは、多くの犯罪、非行が「生きづらさ」のなかから行っている現状があるからです。まさに福祉課題だと思っています。社会資源としての保護司や協力雇用主との連携も入れてもらえればとおもいます。	警察、地方検察庁、福岡県矯正管区、保護司会、支援を行う団体等と連携し、社会全体で罪を犯した人を支援していくことが重要であると考えます。

(4) 第2回第3期中間市地域福祉計画・中間市地域活動計画「第1章」(素案)について
(ご意見・ご質問)

委員名	ご意見・ご質問	回 答
A 委員	①市民一人ひとり身近な圏域で「我が事・丸ごと」の地域づくりが必要だと思います。 ②支え手側と受け手側に分かれるのではなく地域住民が役割を持ち、支え合いながら自分らしく活躍できるコミュニティをつくり、協働したまちづくりが楽しくワクワクする分野であってほしいです。そして、福祉という枠にとらわれない連携が必要だと思います。	①地域の課題は、地域住民の方々一人一人が自分たちの課題であることを考えていただくことで、地域住民全体で課題解決のための協力体制ができると考えます。 ②校区まちづくり協議会のヒアリング調査の結果のとおり、地域団体が連携して様々な取り組みをしております。その取り組みに、たくさんの市民の方が参加することで協力の輪が広まると考えます。
B 委員	第2期と比較して P3の「地域共生社会」を主軸とした説明図が、以前は自助(各個人)が公助と共助から援助を受けるようにも感じる図でしたが、第3期ははじめに以前の状況図を表し、そこから必要な力が集結して、それぞれの立場が対等に並んでおり、役割分担が分かりやすく表現されていると感じました。P5の関係図も住民が中心に表現されており、行政、社会福祉協議会とともに地域福祉の推進へと図式化しているところがわかりやすいと感じました。 P6に他の計画で中間市自殺対策行動計画が今回から入っていますが、福岡県の自殺者の推移は令和元年まで減少傾向でしたが令和2、令和3年は増加しています。令和3年の自殺者数は913人(男性575人、女性338人)で女性の割合が増加しています。また年代別ですと20歳未満の若年層の自殺者の割合が増えています。身近な方の声のかけ方ひとつで救える命もあると思いますので、今後の取組みに期待いたします。	自殺対策については、悩みを抱えている人の身近に相談できる人がいることが大事ですが、周りの人が異変に気づき適切ができるゲートキーパーの存在も大事だと考えます。異変に気付いたら、まずは話を聞き、必要に応じて専門の支援機関に繋ぐことで、少しでも解決に繋がります。ゲートキーパー養成研修といった研修に参加するなどして、社会全体で支え支援を行えるようにすることが必要だと考えます。

委員名	ご意見・ご質問	回 答
C 委員	「縦割」行政や「支え手」「受け手」の関係を 超え「我が事」として進めていくという「地 域共生社会」の実現は、地域福祉の推進にと って重要な課題と考えます。しかし、では「我 が事」として市民が考えていくようなシステ ムをどのように構築していくのかを、もっと 具体的に考えていく必要があると、私は感じ ます。「地域共生社会」の実現の前に国から出 された「地域包括ケアシステム」の構築とい う課題は、国がこのことをテーマにした部会 を先月開催しているようですが、どうなって いるのでしょうか。	地域住民や地域団体・事業所が 地域の課題を自分たちのことと 捉え、地域で解決できる課題を 地域で解決するためにも、地域 の様々な方の参画は必要である と考えます。地域包括システム の構築も含め、現在は、校区まち づくり協議会のヒアリング調査 にも挙がっているような地域の 課題を行政が吸い上げて、地域 住民行事等を通じて関わり関係 づくりを行いながら、課題解決 に向けた支援を行っている最中 であります。

(5) 第3期中間市地域福祉計画・中間市地域活動計画「第4章」(素案)の構成変更について
(ご意見・ご質問)

委員名	ご意見・ご質問	回 答
A 委員	①基本目標にかかげてるようにみんながつながり誰もが安心していきいきと心豊かに暮らせる、市民が主役のまちづくりをお願いします。 ②地域にある生活のしづらさ、困難さを抱えている人、家族の問題発見、問題解決に必要なインフォーマルケアのコーディネート、新しいサービスの開発、機能等で期待されている社会福祉協議会の活動・機能が必ずしも十分発揮できているとはいえないと思います。	①市民、地域団体・事業者、社会福祉協議会、行政それぞれが課題解決のために取り組むことで基本目標を達成し、「笑顔あふれる地域(まち)づくり」となると考えます。 ②社協では各種事業を通じて、生活に課題や困難を抱える世帯、既存の制度では救済できない世帯に対する支援を行っています。各種事業から見えてきた個人の抱える課題を地域全体の課題と捉え、平常時から地域に出向き、住民組織や地域福祉活動団体とのつながりを持ち、課題を抱える世帯の早期発見・解決に住民と共に取り組めるよう、人材確保・育成に努めてまいります。
B 委員	計画構成をしっかり意識して、できるかぎり協力し、皆様に声かけも心がけたいと思います。来春、イオンが開業するので少しでも地域の方と会える機会が増えるのではと思います。「中間市に住んで老後楽しかったね。」と言って終わりたいものです。	コロナ禍により地域の方と出会う機会が減少し、様々な活動もできない状態が続いていると思います。その中でもできることから少しずつ取り組むことができれば、と考えます。
C 委員	課題→方向性→それぞれの役割で「主な取り組み」を記載し、実行へと促していく形になっていてわかりやすいため、構成変更に賛同します。	賛同いただきありがとうございます。
D 委員	市立病院が閉院となり、また、中央公民館や働く婦人の家も閉館となったことで、市民が集う場所が減少したが、その建物や跡地はどうする予定でしょうか。	現在、どのように活用するかについては検討中です。中央公民館や働く婦人の家に代わる市民が集う場所の建設も含め、今後

委員名	ご意見・ご質問	回 答
D 委員		考えていく必要があると考えます。